

2012
APRIL

4

創刊号

DOSHISHA ROHM PLAZA OLD PROJECT MEMBERS' MAGAZINE

いっぽ

大人の ippo

不定期発行

同志社ローム記念館
プロジェクト
OB&OG=OPによる
現役学生のあなた
のための情報誌
A-ippo.com

創刊特集

#1 初代スタッフ座談会
コアスタッフのDNA#2 OP 探訪
職場の“愛用品” コッソリ 教えますOP 探訪
職場の“愛用品”
コッソリ 教えます

仕事に使う道具って本当に大切。「これがないと仕事にならぬ」というものから、「息抜きも必要だね」というものまで。コアスタッフOPメンバーの愛用品を本人の言葉で紹介。道具選びだってスキルのひとつなのです。さらに、PJ活動当時の思い出を振り返るコメントとあわせてみると、なるほどこの品を選んだのも納得という雰囲気伝わってくるかも？ 初回はおまけでヒロミの愛用品もご紹介！

記事の見方：『愛用品の名称』1.会社名 2.仕事内容 3.愛用品が仕事でどう役立っているのか 4.ひとこと

細川達朗

『細川のペンセット』

- 1.日本電気株式会社
- 2.製品企画と開発
- 3.気分でノートに使う色合いを変えて気分転換したりしています。ややこしい内容を記載するとき、色が沢山あると便利です。鉛筆やシャーペンは携帯しません。あとと落書きの絵が大発生するので。
- 4.振り返ると、同志社ローム記念館プロジェクトに参加できたおかげで、まともな人間に近づけた気がします。本当に貴重な時間でした。一緒に活動したみなさん、本当に感謝です。もしこの時間がなければ、今頃は自宅警備員として活躍し、画面の中の世界を何度も救う勇者として尊敬を集めていたことだと思います。こんなことを考えた久しぶりの母校での楽しいひと時でした。

長谷芳樹

『Victorinox Flash 16GB』

- 1.神戸市立工業高等専門学校 電子工学科
- 2.教育・研究。研究は超音波を少々。
- 3.ナイフ・ヤスリ・ハサミ・LEDライトにUSBメモリが付いてます。学会出張時などに最適。ハサミ等が旅先で意外と役に立つだけでなく、他の研究者にみせると間違いないくらい盛り上がるため、交流が深まるという副作用も。フライトに持ち込めないのが玉に瑕。
- 4.今回、大人のippo企画に際して久しぶりに当時のメンバー達とコンタクトしました。みんな本当に個性的でありながら気品があり、相手を尊敬しながらすっきりと自信がある、そんな類い希な素晴らしい人たちだったんだと、今更ながら感慨がこみ上げてきました。こんな至高のメンバーに囲まれた学生時代を過ごしていたことにあらためて感謝です。ありがとうございます。

戴内里佐

『外国製のグミ (HARIBO)』

- 1.日本ハムビジネスエキスパート株式会社
- 2.グループ会社向けのシステム開発をしています
- 3.子供の頃京都四条に出ただけソニプラで買ってもらえたHARIBOのグミ。自分で稼げるようになった今は大人買いです。仕事で集中しすぎた時、思うようにプログラミングでぎずイライラした時に食べるとホッとします。グミばっか食べて太らないかって・・・糖分は脳にいいからノーカウントです！
- 4.久しぶりのコアでの座談会楽しかったです。社会人になってだいぶ経つけど、大学の景色やローム記念館の微かな金魚スメルを嗅ぐと一気にコアPJでバリバリ企画やっていた頃の気持ちに戻りました。

ヒロミ

『オレンジなものたち』

デスクの上に集合してます。私に元気を与えてくれます！

第2号を出す時には
また座談会しましょうね
(←2号出すのは決定事項
ですよ、長谷さん)

草場みさ

『設計道具一式』

- 1.パナソニックグループ 三洋電機株式会社
- 2.デジカメの回路設計
- 3.入社して最初に渡されたのがこの一式です。一部(電卓)は自前で、あともう一つ、テープでぐるぐる巻きのものは入社当初に自作した放電用の道具です。回路を引くのはPC上ですが、実際は試作が帰ってからの検討の方が時間が長いので。基板上の部品を触るので、どれもなくては仕事ができないので困りますが、放電用の道具は無いとカメラ内部の電解コンデンサで感電する恐れがあるので、怖くてカメラに触れません。
- 4.感電するといっても、実際は明るい一瞬の発光とともにパチッという音がしてちょっとしたコゲができるくらいですよ☆その日一日のやる気が損なわれる程度です(おい)

Sponsors' Comments

泉谷一馬 (2003～04年度 コアプロジェクト) | T.H.『楽しい企画に関われて嬉しです！』(2003～08年度 コアプロジェクト、Cure the Life) | 深夜子『学生のうちに好きな事もっとすればよかったー！』(2003～04年度 コアプロジェクト) | 澤本『私もHARIBO好きです。』(2004～07年度 コアプロジェクト) | やぶこ『大人のippo 創刊おめでとうございます！』(2004～08年度 コアプロジェクト) | 松村冬子『長老に怒られながらippo作ったのが懐かしいです！』(2003～04年度 コアプロジェクト) | 失敗コピー2号『卒業してすでに丸七年、今度の新入生は一周違う...遠いところになってしまった。』(2003～04年度 コアプロジェクト) [順不明]

大人のippo誌は同志社ローム記念館プロジェクトOPのみなさまからの寄付金で運営されています

おもての写真

同志社ローム記念館
プロジェクト中間報告会
における劇場空間の
オペレーション
(2004年9月27日)

大人の ippo 2012年4月 創刊号

発行日 2012年4月1日
 発行者 同志社ローム記念館 大人のippo 編集委員会
 代表 長谷 芳樹 (初代コアプロジェクトメンバー)

無料

ご意見・ご質問・話題提供などがございましたら **A-ippo.com** までご連絡ください

同志社ローマ記念館
プロジェクト
OB&OG=OPによる
現役学生のあなた
のための情報誌
A-ippo.com



◀ 第一回秋のデジタルアートコンテスト
「Arte Fiesta」の開催風景。
パネルの周囲に隙間無く
風船を並べるために、
数式を立てて必要な風船
の数を計算していたスタ
ッフまでいたとか。
(2004年11月)



◀ 「Arte Fiesta」
のポスター。
巨大CGア
ートコンテ
ストとケー
タイフォト
コンテスト
の二本柱だ
った。

初代スタッフ座談会 コアスタッフのDNA



同志社ローマ
記念館新学期
フェア。事実
上これがコア
スタッフ主体
で企画した最
初のイベント
だった。
(2004年4月1日
～7日)

長：Arte Fiestaのポスターは
こんなでした。
一同：かわいい！
藪：自分の最初の仕事で「
Fiesta」でした。委員の先生方
はあれこれダメ出しされていま
したけど、いつの間にか何も言
われなくなりましたね。
細：住野さんがチロルチョコを
1000個買ってきたね。「エ
サで釣らないと客は来ない」と
いう名言が生まれた。
福：その名言は今も引き継がれ
ていますよ。
一同：おー笑。
細：なんとか値引きしてもらお
うと交渉したんですけど、最初
は門前払いだったんですよ。そ
こで住野さんが知恵を絞って、
スゴい人風の名刺を置いて帰る
ふりをして待っていたらOKの
電話が・・・
藪：交渉術は知恵と粘り！
細：設営では、壁にものを貼っ

2003年にオープンした同志社ローマ記念館。開館
当初から活動していたコアスタッフの初代メンバーが
つくった情報誌「ippo」はもうすぐ十周年を迎える。
大人の「ippo」編集部では座談会を企画し、初代メンバ
ーに当時を振り返ってもらった。

てはいけないという制約が大変
でした。窓には貼りましたけど。
細：ケータイフォトコンテストは
カメラ付き携帯が普及してきた
時期だったのでタイムリーだっ
たね。
福：去年やったARコンテスト
と同じような感じですね。
細：そうそう、そんな感じ。女
子大に行って、30枚くらいを
印刷させて貰ってきたて貼り合
わせた。作品の周囲を埋めるの
に風船が何個必要かを数式を立
てて解いていたスタッフも・・・
藪：で、その横で気にせずどん
どん風船を貼っていつっちゃう(笑)。
藪：垂れ幕も手作業で貼り合
せてマルチビジョンの横に垂ら
しましたね。遠目に見て綺麗で
あればOKなんです！
イベント運営について
長：ところで、最近のイベント
はどう？
小：今のローマ館にはもっとイ
ベントがあったら良いと思いま
すね。一部の企画は残ってます
けど、大きなコンテストはこれ
以降おこなわれてませんし。
長：「10年の時を経てよみがえ
るArte Fiesta」なんてのはどう？

一同：誰も覚えてない！(笑)
藪：企画を考えるときには過去
の資料を見て参考にしてくれば・・・
福：過去の資料はよく見るので
すが、なにせ資料が膨大なので
実際にどのくらいの人数で活動
していたんですか？
藪：Arte Fiestaは3〜4人で回
していましたね。
現役生：たったそれだけ？
細：具体的にやるのがきまっ
たらスタッフを集めはしたけど、
中心メンバーは少人数。企画を
するときはいいたいそんな感じ
でしたね。
思い出に残った企画は？
細：チョコレートのパッケージを
Windows付属のペイントで作っ
ていたのがとにかく衝撃的だった。
藪：当時はPhotoshopも知らな
かったので、スキャンしてがんば
ってペイントで作りましたね。
藪：第一回の授賞式はアカデミ
賞をテーマに、山田先生に司会を
依頼しました。
細：キュー出しをとて細かく打
ち合わせしたね。司会者が手を挙
げた瞬間にスポットライトを当て
る！などなど。大変だったけど効
果があった。あと、コアスタッフ
の「こういうのをやりたい！」と
いう力がスゴかった。実現する方

景品のチロルチョコ、1000個の
チロルチョコを
安く仕入れるた
めには、当時の
スタッフの涙ぐ
ましい努力と執
念とアイデアが
あった。
(2004年11月) ▼



◀ Arte Fiesta期
間中に投票す
るとチロルチ
ョコがもらえ
た。「エサで
釣らないと客
は来ない」と
いう名言が生
まれた。この
名言は代々引
き継がれてい
るという。
細：回転するDRのロゴもつく
りました。スキーに行く前日に
依頼が来て、徹夜で作って電車
法がわからないのに、障壁をも
のもしないエネルギーがスゴ
いあった。
藪：ブルドーザー的な勢い？(笑)
イベントを企画する時、「どう
いうことをしたいか？ 枠が決ま
っている中でどうするのが一番
楽しいか？」ということを一
番考えてましたね。当時は誰かに
頭さえ下げれば「できないこと
なんてない」と思っていた(笑)。
ひ：前例も無かったしね。
細：回転するDRのロゴもつく
りました。スキーに行く前日に
依頼が来て、徹夜で作って電車



▲ ローマ記念館大賞第一回授賞式にて、初代の大賞
の授与。この時の授賞式のテーマは「アカデミー賞」。
赤じゅうたんは絶対に外せないアイテムであった。
(2005年3月18日)

の中から送りましたよ。
藪：大がかりな機材を持ち込ん
でのイベントなど、自分たちが
最初ですかね？
ひ：初代ですから当然初めてで
すよ(笑)。
細：色々前例をつくったね。
福：今年のコア(舞台計画)では、
いろいろ初めての企画にチャレ
ンジしました。餅つきを企画し
たり、雅楽会の演奏も依頼したり・・・
細：そういう活動のエネルギー
がコアスタッフのDNAだね。
自分達がイベントを企画するま
では誰もDRに寄りつかなくな
ったけど、それを打破したので大
成功だったと思う。現役のスタ
ッフにもぜひこのDNAを継承
していつて欲しいね。
細：ちなみに自分は「一番思い
出に残った企画」の一つには絞
れませんね。ただ、新学期フェア
は一人でやり始めて、いろん
な人に迷惑をかけた。

ひ：新学期フェアが実質的にコ
アの最初のイベントだったのでは？
細：そうですね。大変でした。
でも、一番大変なPJ間の調整
は他のスタッフに任せてしまっ
て一日に70件くらいの苦情メ
ールが・・・
細：Arte Fiestaはみんなで取り
組んだね。レストランでミーテ
ィングをしたり、どれもこれも
それぞれ思い出があって選べない
藪：イベントとの関わり方によ
って感じるところが違うのが面
白ね。「大人の階段を登る」
感覚。
細：澤本さんはとにかくスキル
を磨いていたよね？
澤：そういわれると「これをや
った」というのがあまりないで
すね。
一同：(苦笑)
澤：あー楽しかったなあーって
のは取り立てては無いです。でも
いまいろいろな仕事をするとき
に活動していた時の感覚がこび
りついている気がします。
一同：それこそがコアスタッフ
のDNA！



◀ 最初は操作
卓のオペレ
ーションも
手探り。機
材の扱いが
なっていないと、長老パ
ンチが炸裂
したらしい。

ひ：ところで・・・こんな座談
会で記事書けるの？
澤：そもそも大人の「ippo」って誰
をターゲットにしてるんですかね？
細：OPのOPによるOPのた
めの冊子？
長：んー、特定のターゲットに
向けた冊子というよりは、軽く
手にとって見てもらえればそれ
でいいと思ってる。
ひ：OPが活動していた時期を
振り返ってみても「楽しかった
と言える」ってのが伝わればい
いんじゃない？
長：そうそう！ だからこの座談
会はこの感覚で大丈夫！
一同：(ほんまに？)
藪：ところで用紙はB4を2つ
折りみたいですけど、折るのは
手作業ですか？
長：現役時代は手作業でしたけど、
今回は「大人」の冊子なのでお
金で解決！
一同：(笑)
長：用紙も良い紙を使って作る
ので、乞うご期待！

message by "hiromi"



▲ お気に入りの
オレンジシャツで
イベント進行のチェ
ックに余念の無いヒロミ。
(2004年10月)

ローマ記念館プロジェクトも8期目が過ぎようとしています。初代メンバーは早くて社会人7年目という立派な
「おとな」。そんな「おとなのippo」座談会。久しぶりの面々に会えるということでわくわく。
っておおい！ 2分おきに脱線(てか基本が脱線！?)、テーマトーク成立せず、でなんと6時間の長丁場！ 現役
メンバー顔負けのぐだぐだな会となりました；
でもね、集まったOP4人が揃って活動していたのはたった1年足らず。それでも思い出話は尽きない！ もちろん、
怒ったり、泣いたり、大変なこともあったけど、本当に楽しくて、濃い濃い日々を過ごしたんだよね。
「コアで活動してたときの感覚は体にこびりついている気がする」S本さんのコトバ、うれしかったなあ。プロジェ
クト活動をどう活かす、とかどうアピールするとかじゃなくて、濃い濃い毎日を過ごせば、ちゃんと力になってい
て、立派な社会人として活躍できるってことなのかもね。おとなになって、久しぶりに会って、時間を忘れるほど
にたくさんさんの思い出話ができること、財産だよ！
一番オトナの私は、疲れもしましたが、楽しいひとときを過ごせました。
みんなさんきゅ。

同志社ローマ記念館事務局 西村 ひろみ